

生態学研究を行い、community 構造のなりたちを考える。

## 論文

- 1) Watanabe, K. and Mori, A. (1991) : Prolonged effects of developmental retardation on the prospective reproduction concerning to food-shortage observed in Japanese macaques on Koshima Island. In : Primatology Today (eds. by Ehara, A., Kimura, T., Takenaka, O., and Iwamoto, M.) , pp. 393-396, Elsevier Science Publishers, Amsterdam.
- 2) Watanabe, K. and Matsumura, S. (1991): The borderland and possible hybrids between three species of macaques, *M. nigra*, *M. nigrescens*, and *M. hecki*, in the northern peninsula of Sulawesi. Primates, 32 : 365-369.
- 3) Watanabe, K., Matsumura, S., Watanabe, T., and Hamada, Y. (1991) : Distribution and possible intergradation between *M. tonkeana* and *M. ochreata* at the borderland of the species in Sulawesi. Primates, 32 : 385-389.
- 4) Watanabe, K. and Mori, A., and Kawai, M. (1992) : Characteristic features of the reproduction of Koshima monkeys, *Macaca fuscata* : a summary of thirty-four years of observation. Primates, 33 : 1-32.

## 報告・その他

- 1) 東 滋 (1991) : サルの世界・大畑川の冬。グリーンパワー, 1月号。
- 2) 東 滋 (1991) : サルの世界・奥戸川の2つの群れ。グリーンパワー, 2月号。
- 3) 東 滋 (1991) : サルの世界・さまよえる群れ。グリーンパワー, 3月号。
- 4) 東 滋 (1991) : 国割岳西斜面のヤクザル個体群の地域構造。1991年度西部林道モニタリング調査サル班報告。
- 5) 東 滋 (1991) : 種の保存。東奥日報, 91.12.12.
- 6) 渡邊邦夫 (1991) : サル。「インドネシアの

事典」, pp. 189-190.

- 7) 渡邊邦夫 (1991) : ニホンザル保護をめぐる最近の問題点—久しぶりに開かれた「ニホンザルの現況」研究会から。霊長類研究, 7 : 53-54.
- 8) 渡邊邦夫 (1991) : 霊長類における学習と文化。週間朝日百科「動物たちの地球」, 1 : 314-319.
- 9) 渡邊邦夫 (1991) : 野生ニホンザルにみる利き手。左右差の起源と脳 (久保田競編), p. 49-62. 朝倉書店。

## 学会発表

- 1) 渡邊邦夫 (1991) : スラウェシマカクの現状と保護について。第7回日本霊長類学会大会。霊長類研究, 7 (2) : 155.
- 2) 井上美穂・大沢秀行・渡邊邦夫・竹中 修 (1991) : DNAフィンガープリント法による父子判定の、野生霊長類への応用。第7回日本霊長類学会大会。霊長類研究, 7 (2) : 144.

## サル類保健飼育管理施設

小嶋祥三 (施設長・兼)・松林清明・後藤俊二・鈴木樹理・松林伸子<sup>1)</sup>

平成3年度の活動を以下に述べる。

1) 営繕工事の要求が認められて、第2放場に飼チンパンジー用のテスト室および居室が増設された。これは本棟地下で飼育されていた2頭のチンパンジーが成長し、第2放飼場に移動したことに伴う処置である。今後第1、第2放飼場の次段階の改修を順次要求する予定である。

2) サルを含む動物の実験使用については、動物福祉の観点から、きめ細かな配慮が要求されるようになってきている。そのような状況に対応し、サル類の飼育や繁殖の改善を目指して、当施設を改組、拡充するセンター化の構想が計画された。これについては現在進行している研究所 (部門) の改組が決着した後には要求する予定である。それに関連して、自家繁殖体制をほぼ確立した現時点での適正飼育頭数やサルの所外供給に関わる諸問

- 1) 教務職員

題を討議している。

3) サル施設職員の海外における活動。松林清明が平成3年10月に、JICAの短期専門家として、ケニアの霊長類研究所の繁殖システムを指導した。また、三輪宣勝技官が10、11月に生活史研究部門の杉山教授の隊に参加し、アフリカギニア国ボッソウで野生チンパンジーの調査を行った。

4) 平成3年度より前田典彦技官が新規採用され着任した。技官の高齢化が憂慮されるなかでの久しぶりの朗報である。

## 研究概要

### 1) サル類の繁殖に関する研究

松林清明

特にオスニホンザルの生殖機能の老齢化に伴う変化を見るため、20才以上の個体の生殖器の組織学的検索を行った。

### 2) サル類の花粉アレルギーに関する研究

後藤俊二

ニホンザルにおけるスギ花粉症の自然発症を明らかにするため、血中IgE抗体価や皮内アレルギー反応等を指標とした疫学調査を進めた。また、スギ花粉抗原の人工感作による花粉アレルギーの実験モデル作出を試みた。

### 3) サル類の成長の生理学的及び形態学的研究

鈴木樹理

サル類の血中成長ホルモンの分泌動態を明らかにするために、性成熟期前後のニホンザルとアカゲザルについて、24時間の連続採血を行った。実験終了回復後、生体計測を行い形態学的データを得た。これら成長ホルモンのデータと生体計測データを合わせて成長の解析を行った。

### 4) サル類のストレス定量のための基礎的研究

鈴木樹理

日常的にサル類に負荷されている様々なストレスを定量するための基礎研究として、採血の場を設定し血中のコルチゾル及びリンパ球サブセットの定量を行った。

## 論文

1) Matsubayashi, K., Watanabe, G., Taya, K., Katakai, Y., Sasamoto, S., Suzuki, J., and Nozaki, M. (1991): Seasonal changes in plasma concentrations of immunoreac-

tive inhibin and testicular activity in male Japanese monkeys. *Biology of Reproduction*, 44: 822-826.

2) Maeda, K. I., Tsukamura, H., Ohkura, S., Kanaizuka, T. and Suzuki, J. (1991): Suppression of ovarian activity during the breeding season in suckling Japanese monkey (*Macaca fuscata*). *J. Reprod. Fert.*, 92: 371-375.

## 報告・その他

1) Matsubayashi K., Gotoh, S., Kawamoto, Y., Nozawa, K., Watanabe, T., Takasaka, M., Narita, T., Griffiths, O., and Stanley, M. A. (1991): Hematological, parasitological and microbiological examinations on crab-eating macaques in Mauritius. *Kyoto University Overseas Research Report of Studies on Asian Non-Human Primates*, 8: 1-10.

2) 松林清明 (1991): ヒマラヤ高地におけるニホンザルの生理事象. *ヒマラヤ学誌*, 2: 117-125.

3) Watanabe, T., Matsubayashi, K., Kamamoto, Y., Griffiths, O., and Stanley, M. A. (1991): A morphometrical study on crab-eating macaques in Mauritius. *Kyoto University Overseas Research Report of Studies on Asian Non-Human Primates*, 8: 11-15.

4) Kondo, M., Kawamoto, Y., Nozawa, K., Matsubayashi, K., Watanabe, T., Griffiths, O., and Stanley, M. A. (1991): A report on the genetic variability and constitution of crab-eating macaques (*Macaca fascicularis*) on the island of Mauritius. *Kyoto University Overseas Research Report of Studies on Asian Non-Human Primates*, 8: 17-25.

## 学会発表

1) 松林清明・松沢哲郎・上野吉一・木田光朗・今井章 (1991): ニホンザルの低酸素条件への応答. 第38回日本実験動物学会総会. 講

演要旨, p. 128.

- 2) 松林清明・松沢哲郎 (1991): ヒマラヤ高地におけるニホンザルの生理事象. 第7回日本霊長類学会大会. 霊長類研究, 7 (2): 142.
- 3) 松林清明 (1991): 高地へのニホンザルの生理的適応能. 第30回関西実験動物研究会 (京都). 1991年6月14日.
- 4) 後藤俊二・中村 伸・橋本道子・横田 明・和 秀雄 (1991): ニホンザルにおけるスギ花粉抗原の人口感作実験. 第38回日本実験動物学会総会. 講演要旨, P. 125.
- 5) 中村 伸・峰沢 満・後藤俊二・橋本道子・和 秀雄 (1991): ニホンザルにおけるスギ花粉自然感作の特徴. 第41回日本アレルギー学会総会. アレルギー, 40 (8): 981.
- 6) 後藤俊二・橋本道子・横田 明・中村 伸 (1991): ニホンザルを用いたスギ花粉アレルギーの実験モデル. 第41回アレルギー学会総会. アレルギー, 40 (8): 981.
- 7) 鈴木樹理・三輪宣勝・後藤俊二・松林清明 (1991): 飼育様式によるマカクの成長の差異. 第7回日本霊長類学会大会. 霊長類研究, 7 (2): 141.

1991年度（平成3年度）サル類動態表

区分 種名	増加		死							※		
	導入	出産	実験殺	外傷死	呼吸器系疾患	消化器系疾患	循環器系疾患	泌尿器系疾患	その他			
コモンツパイ					1				1		1	
ワオキツネザル			1									
オオガラゴ					1							
ワタボウシタマリン		13	2	5						4		
コモンマーモセット	5								2	1		
ヨザル		1										
フサオマキザル		2					1					
ニホンザル	3	34	59	1	1	5	2	1		3	2	
アカゲザル		47	34	3	2	2	1			2	1	
タイワンザル		1	2									
カニクイザル	7	12	18		1	1					1	
ボンネットザル		1	2									
ベニガオザル							1					
アッサムザル						1						
マントヒヒ		2	2									
小計	15	113	120	9	6	11	3	4		8	5	
合計	128		168									

注) 増加総頭数 - 減少総頭数 = 差引頭数  
 128 (増加) - 168 (減少) = -40 (減少)

※剖検不能など

1991年度（平成3年度）未飼育頭数

種名	頭数	種名	頭数
コモンツパイ	4	ニホンザル	359
ワオキツネザル	3	アカゲザル	240
オオガラゴ	3	タイワンザル	14
コモンマーモセット	6	ブタオザル	4
ワタボウシタマリン	17	ベニガオザル	2
ヨザル	10	ボンネットザル	13
リスザル	3	カニクイザル	56
フサオマキザル	12	セレベスマカク	2
チュウベイクモザル	1	マントヒヒ	9
ケナガクモザル	1	シロテテナガザル	2
ミドリザル	6	アジルテナガザル	2
パタスザル	1	チンパンジー	10
ミドリザル×パタスザル	2	合計	782